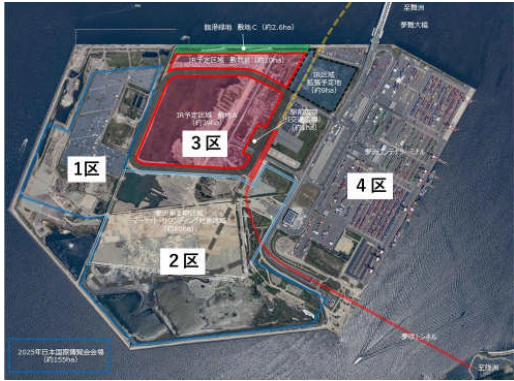


「大阪・関西万博」今すぐ中止を

命の危機、ガス爆発、災害で孤立の恐れ…



問題が多い開催地「夢洲」は、産業廃棄物最終処分場



1区 産業廃棄物最終処分場、
2区 万博会場、
3区 IR・カジノ予定区域、
4区 コンテナターミナル

今年3月28日、夢洲1区のトイレ建設現場で、溶接作業中の火花が土壌から発生したメタンガスに引火し爆発するという事故が起きました。コンクリートの床などが100㎡にわたり破損しました。夢洲1区は万博開催中、入場者の半数以上が利用する観光バスの駐車場や屋外イベント広場、売店

危険な地域に子どもを招待するなんてとんでもない

開催まで一年を切った大阪・関西万博。パビリオン建設の遅れや事業費の高騰が指摘される中、3月末に会場となる「夢洲」でガス爆発事故が発生しました。さらに、災害時の避難計画が不十分など、来場者の命を守るかさえ危ぶまれる事態です。夢洲は、もともと産業廃棄物最終処分地。それだけに有害物質を含む産業廃棄物や建設残土などが埋まっています。万博を開催するにしても最も適さない危険な地域です。日本共産党滋賀県地方議員団は、この目で確かめようと5月17日、現地を訪れ視察しました。甲賀市から山岡・岡田・西山の3名も参加しました(写真下)。

日本共産党議員団が現地視察

などが設置される区域です。メタンガスは万博開催中も発生し続け、ダイオキシンの有害物質を含むゴミの焼却灰、PCB汚泥も埋められている産業廃棄物最終処分場を、万博会場にする自体が危険です。一日平均15万人の来場者を見込む中、さらに危険視されているのは、大規模地震や台風に見舞われた際には、交通路が遮断され、会場が孤立する可能性があります。万博の主要パビリオンが並ぶ夢洲2区、IR予定地の夢洲3区は浚渫土砂や建設残土などが埋め立てられており、軟弱地盤なため、液状化対策も必要であり、地盤沈下も進んでいます。そもそもこのようなところに大規模集客施設を

建設すること自体が無謀です。政府と維新の会が万博に固執する理由はIR・カジノです。「国策」として進める万博を口実にインフラ整備などを進めさせ、カジノ業者の負担軽減を狙ったのです。ところで、入場者を増やすために、滋賀県が学校の遠足や校外学習で子どもたちを公費で無料招待する計画がもちあがっており、批判の声がひろがっています。県は4億円をかけて約18万人の子どもを動員するとしています。が、日程が5月に集中する可能性が強く、貸し切りバス確保の困難や渋滞に加え、駐車場から入り口まで1kmあること、熱中症の危険、災害時の避難計画も不十分、子ども動員はやめるべきです。



第33回鈴鹿馬子唄全国大会少年・少女の部 復活

昨年は地元の子どもの発表がなく淋しいものでしたが、「子どもたちの保存伝承を」と声が上がりました。徳波照峰鈴鹿馬子唄保存会会長はじめ、会員、山岡、岡田、西山の議員が、昨年7月27日に立岡教育長らに要請していました。その結果、大野小学校と土山小学校で学習塾が開かれ、元気のよい声が響きました。全国大会の開催は6月16日。

日本共産党
甲賀市議員団ニュース
2024年 5月 26日 第496号



山岡 光広
甲南町森尻 16
Tel 86-2985
Fax 86-0415



岡田 重美
土山町南土山甲 78-15
Tel 66-0696
Fax 66-0696



西山 実
水口町本丸 3-28
Tel 62-3044
Fax 62-3044